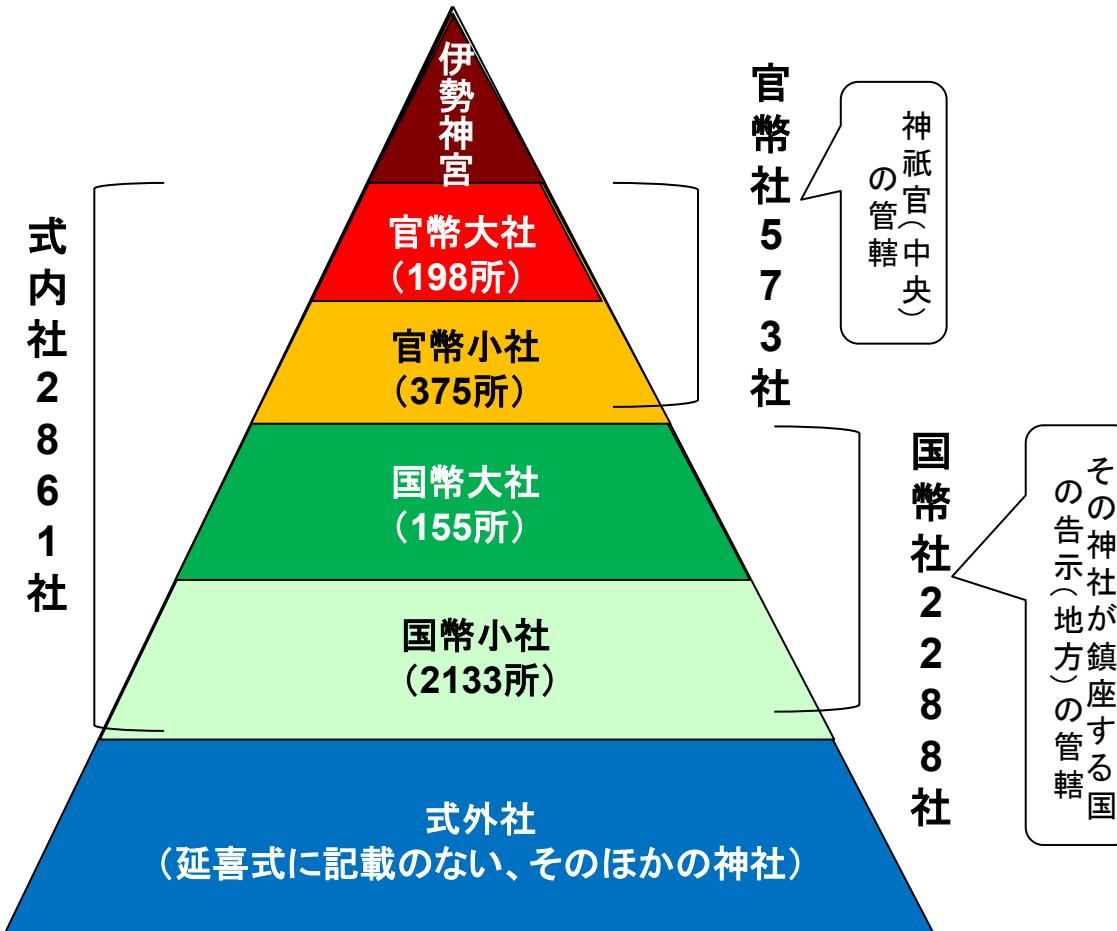


『日本の古代史とその文化』セミナー
シリーズ5「日本の神社と神々」

第1部「熊野信仰と神々」の
参照資料(第1回講座用)

参考資料1-1: 神社の格式

「延喜式神名帳」にて成立(927年)



注: 大社と小社の違いは、幣帛が案(神事用の台)の上に備えられるか、下に備えられるかにあった。

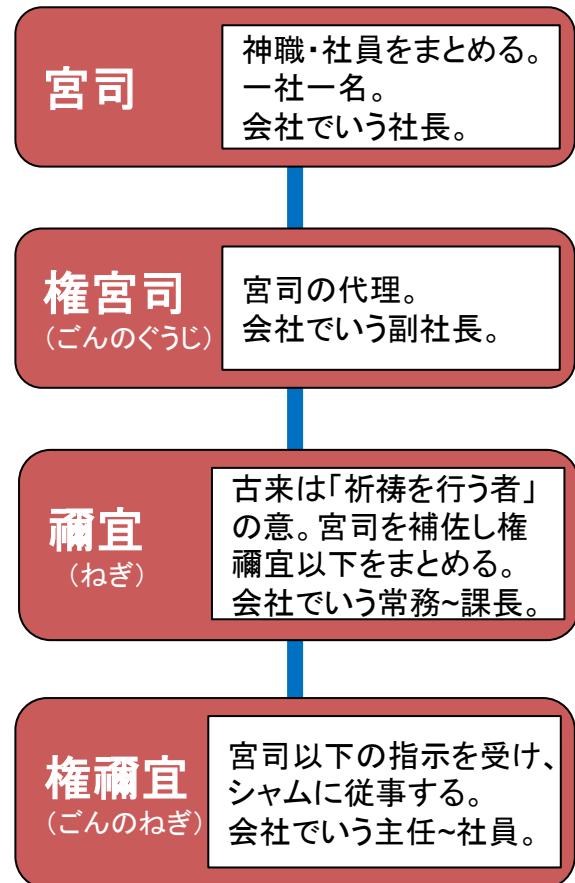
出典:「神社に秘められた日本史の謎」(洋泉社MOOK)

参照資料1-2:神社の社名

社号	意味
大神宮	伊勢神宮（皇大神宮）を表す。
神宮	皇室の祖神や歴代天皇、皇室と縁の深い神を祭神とする神社。鹿島神宮、平安神宮、宇佐神宮など。
宮	嫡男系の皇孫を祭神とする神社（筥崎宮、香椎宮）。東照宮の様な例外も多数ある。
大社	戦前までは出雲大社だけであったが、稻荷神社の様に特定の神を祭神とした神社グループの「本社」を言うようになった。
名神大社	日本の律令制下において、名神祭*の対象となる靈験著しい神々（名神）を祀る神社。その全てが大社（官幣大社・国幣大社）に列していることから「名神大社」と呼ばれる。（注）名神祭（みょうじんさい）は国家的事変が起り、またはその発生が予想される際に、その解決を祈願するための臨時の国家祭祀である
神社	一般的な社号で且つ神社の総称。
社	規模の比較的小さな神社。

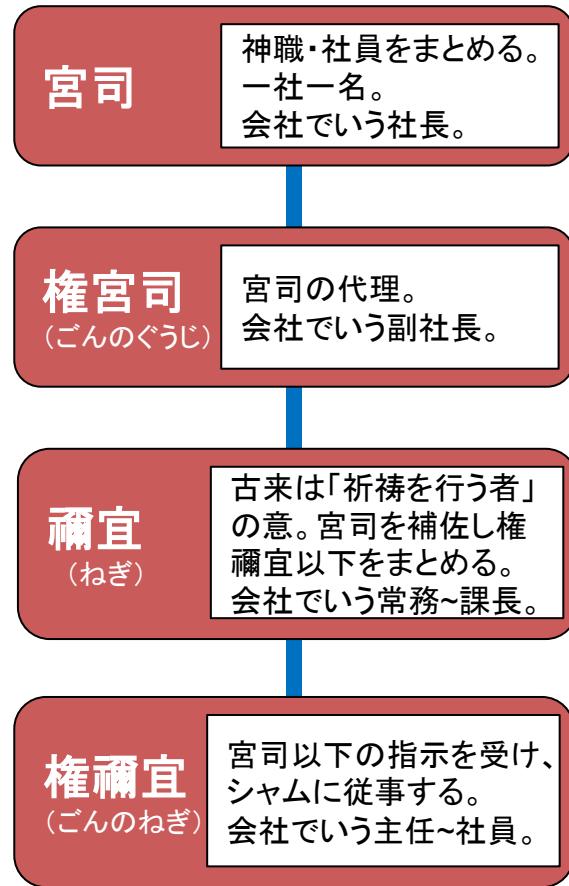
出典:「神社に秘められた日本史の謎」(洋泉社MOOK)

参照資料1-3: 神職の職階



出典:「神社に秘められた日本史の謎」(洋泉社MOOK)

神職の職階



注1:「神主」は神職ではなく、神事や祭事を主宰する人である。仏教での喪主や施主に当たる。

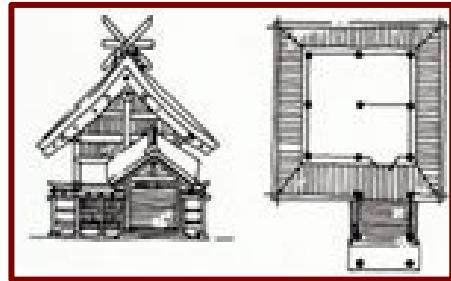
注2:「巫覡(ふげき)」は神職を補佐する。女性は「巫」、男性の場合は「覡」、「神和(かんな)ぎ」の意

出典:「神社に秘められた日本史の謎」(洋泉社MOOK)

参照資料1-5:神社の建築様式(基本形)

出典: ウィキペディアから原図引用

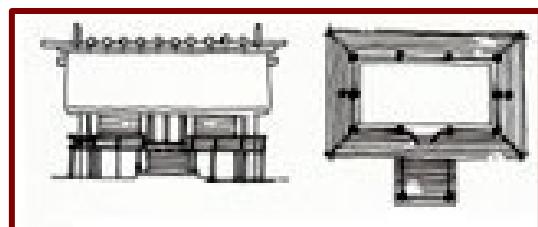
大社造



発展形



神明造

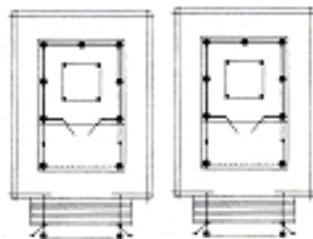


発展形



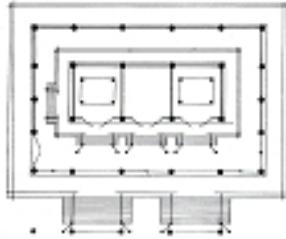
熊野造(熊野本宮)

第3殿 第4殿



切妻造

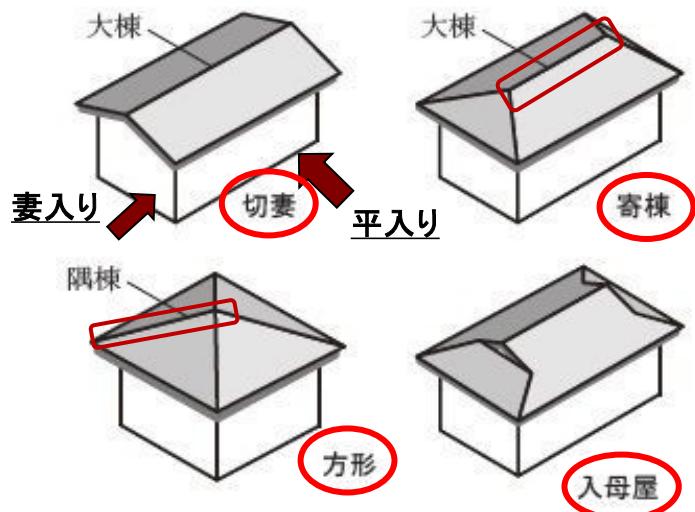
第1殿 第2殿



入母屋造

参照資料1-4:屋根の代表構造

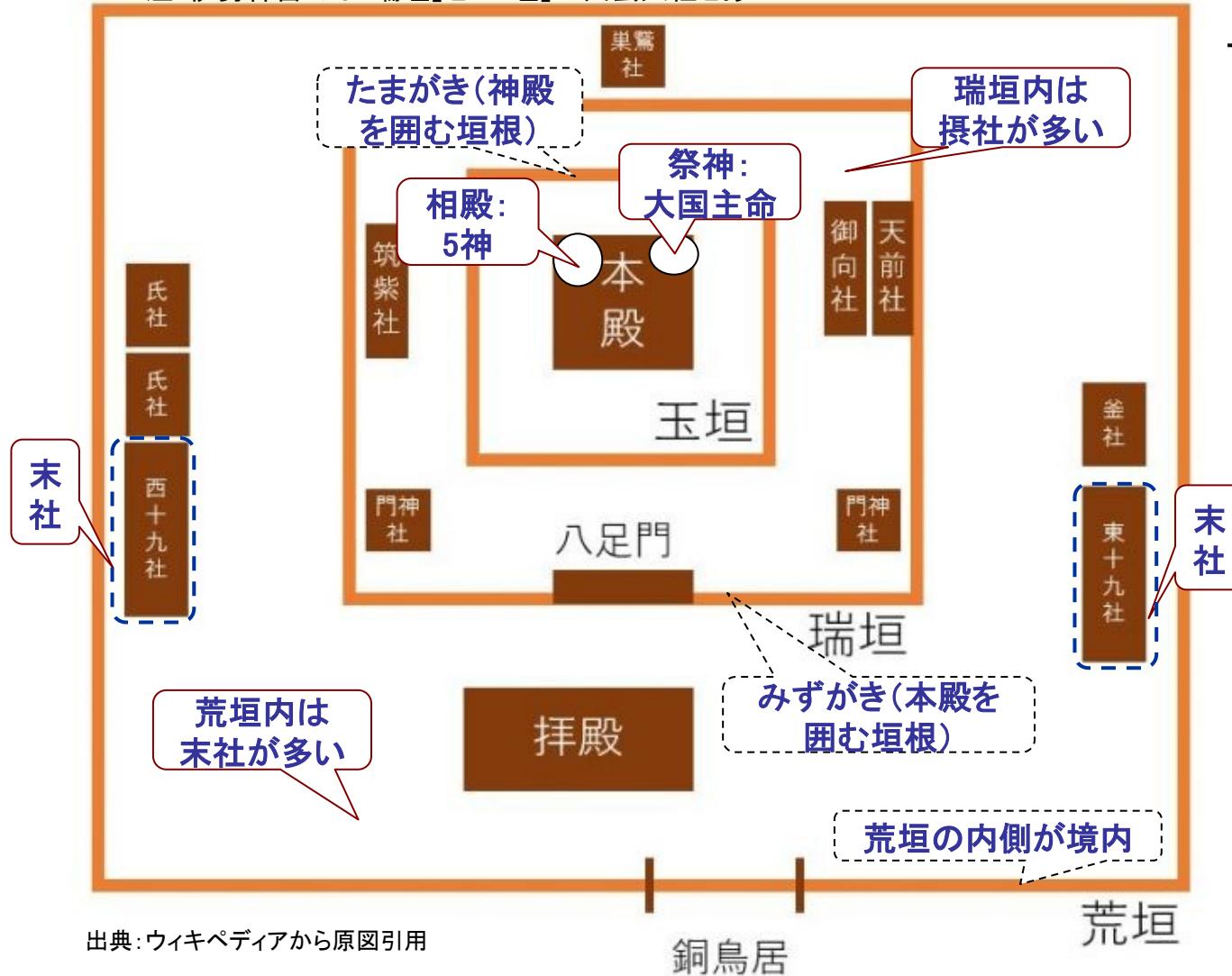
出典: ウィキペディアから原図引用



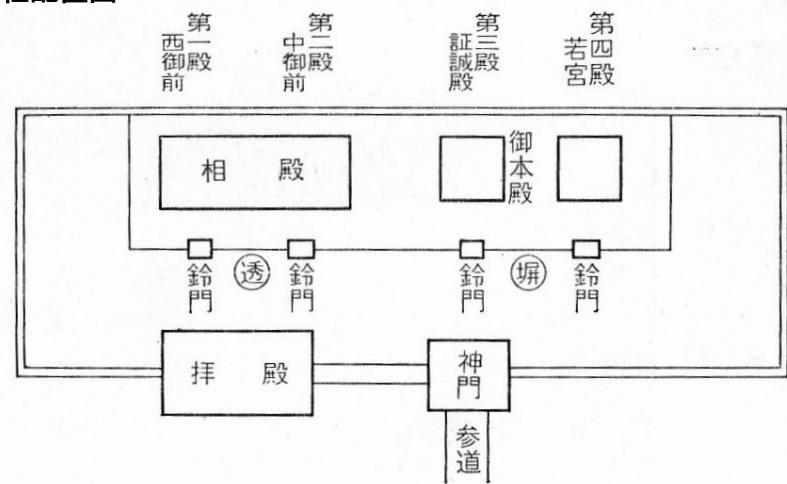
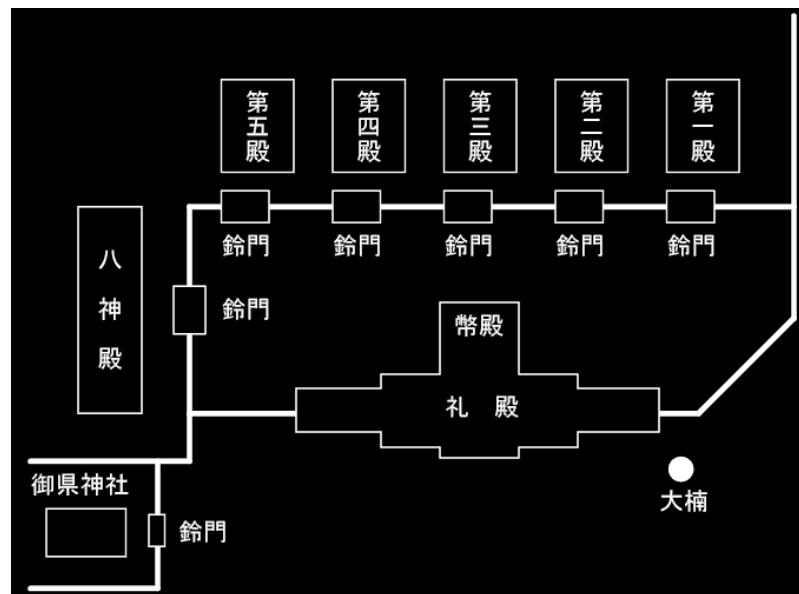
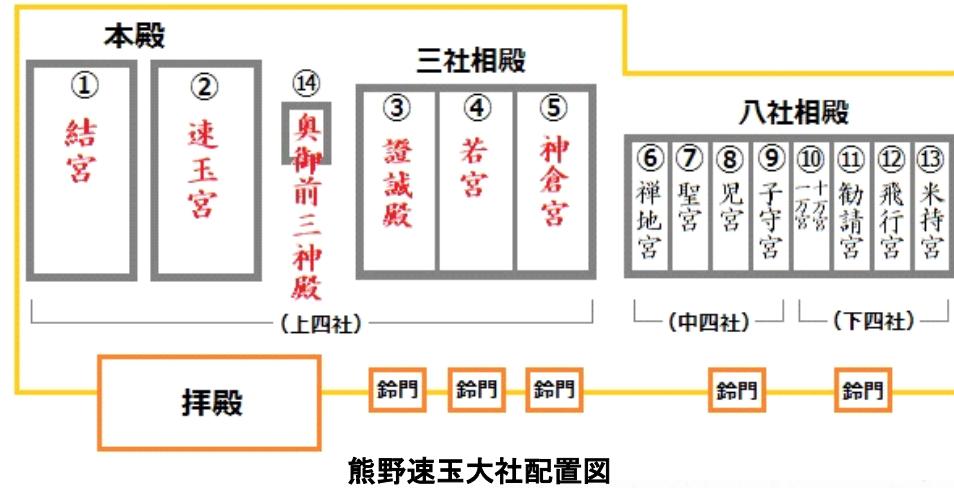
参考資料1-6: 神社境内構成配置図 (出雲大社例)

注: 伊勢神宮では「瑞垣」と「玉垣」が出雲大社とあべこべ

北
4



参考資料1-7-①：熊野三山社殿構成



出典: ウィキペディア)

参考資料1-7-②：熊野三神と国常立命



熊野速玉大神像



熊野夫須美大神像



家津美御子大神像



国常立命像

出典: ウィキペディアから原図引用

参照資料1-7-③: 熊野十二所権現

その1

社殿	社殿名		本地仏の使命	祭神	神の由来
第1殿	本宮	西御前	阿弥陀如来:極楽浄土へ導かれる如来様	夫須美大神 (フスミオオカミ)	「夫須美」は「久須毘」ともいい、「奇火」のことで、火の神。
	新宮	結(むすび)宮	千手観音:千本の手はどのような衆生をも漏らさず救済しようとする	夫須美大神	伊弉諾命が唾を吐いた後、掃きはらって生まれた神。
	那智	瀧宮	千手観音	大己貴命(オオナムチノミコト)	出雲の国を治めた大国主命の若い時の名前である。
第2殿	本宮	中御前	薬師如来:その左手の薬壺には、体の病、心の病、社会の病を治す靈妙なる薬が入る	速玉大神(ハヤタマオオカミ)	(新宮主祭神) 伊弉諾命が伊弉冉命と別離で「お前には負けないつもりだ」と言って唾を吐いた。その唾から成った神。
	新宮	速玉宮			
	那智	証誠(しょうじょう)殿	阿弥陀如来	家都御子大神(ケツミオノオオカミ)	「衣食住の『食』のことを「ケ」ということから、「食」を司る神?
第3殿	本宮	証誠殿	阿弥陀如来:極楽浄土へ導かれる如来様	家都御子大神	(本宮主祭神)
	新宮			家都御子大神 国常立尊	前出
	那智	中御前	薬師如来	速玉大神	前出

参照資料1-7-③:熊野十二所権現

その2

社殿	社殿名		本地仏の使命	祭神	神の由来	
第4殿	本宮	若宮	十一面觀音 :釈迦が亡くなつて 弥勒菩薩が下生するまで人々 を救う菩薩		天照大御神(ア マテラスオオミカ ミ)	皇室の祖神で、日本国民の総氏神であり、 イザナギ・イザナミノ尊の若宮です。
	新宮		若宮			
	高倉下宮		なし		高倉下命(タカク ラジノミコト)	神武東征でイワレビコノ命に一横刀を届けた神。
	那智	西御前	千手觀音		夫須美大神	(那智主祭神)
第5殿	本宮	禪児(ぜん じ)宮	地蔵菩薩 :その左手の薬壺には、 体の病、心の病、社会の病を治す 靈妙なる薬が入る		天忍穗耳命(ア マノオシホミミノミ コト)	天照大神の子神で、スサノオとの誓約(う けい)で成る神です。
	新宮					
	那智	若宮	十一面觀音		天照大御神	前出
第6殿	本宮	聖宮	龍樹(りゅうじゅ)菩薩:インドの僧。 空を生み出し日本八宗(南都六 宗・天台宗・真言宗)の祖		瓊瓊杵尊(ニニ ギノミコト)	天忍穗耳命の子神。天孫降臨の神
	新宮					
八社殿	那智	禪児宮	地蔵菩薩		天忍穗耳命	前出
第7殿	本宮	児宮	如意輪觀音:多様な姿をとつて 人々を救済する觀音菩薩		彦火火出見尊 (ヒコホホデノミコ ト)	瓊瓊杵尊と木花之佐久夜毘賣の子で「山 幸彦」ともいう
	新宮					
八社殿	那智	聖宮	龍樹菩薩		瓊瓊杵尊	前出

参考資料1-7-③ : 熊野十二所権現

その3

社殿	社殿名		本地仏の使命	祭神	神の由来
第8殿	本宮	子守宮	聖観音:多様な姿をとて人々を救済する一般的観音菩薩。正観音、大慈観音と言われる	鶴葺草葺不合命(ウガキフキアエズノミコト)	彦火火出見尊と豊玉姫命の子。玉依姫を後に。
	新宮				
八社殿	那智	児宮	如意輪観音	彦火火出見尊	前出
第9殿	本宮	一万十万宮	文殊菩薩・普賢菩薩	軻遇突智命(カゲツチノミコト)	「火の神」。イザナミはカゲツチを産むとき「ほと」を焼かれ黄泉の国へ
	新宮	一万宮	文殊菩薩:知恵や戒律を象徴する文殊菩薩	国挾槌命(クニノサヅチノミコト)	「サ」は神稻、「ツチ」は土、即ち神稻を植える土の意
		十万宮	普賢菩薩:釈迦の脇侍仏としての普賢菩薩	豊斟渟尊(トヨクムネノミコト)	豊かな(=トヨ)雲(=クモ)」の意であり、雲を神格化した存在
八社殿	那智	子守宮	聖観音	鶴葺草葺不合命	前出
第10殿	本宮	米持金剛(めいじこんごう)	毘沙門天:護法善神としての宮と思われる。四天王の多聞天。北方の守護神	埴山姫命(ハニヤマヒメノミコト)	肥料の神。カゲツチを生んで陰部に火傷をし苦しんでいた伊邪那美命が糞をしたが、その糞から化生した神
	新宮	勧請十五所	釈迦如来:熊野に關係のある祭神の15か所を勧請した宮。人に悟りを開かせる如来	泥土煮尊(ウイジニノミコト)	国常立尊からの第四神。沙土煮尊(すいじに)とともに男女神。泥と砂の神
八社殿	那智	一万宮・十万宮	文殊菩薩・普賢菩薩	国挾槌命・豊斟渟尊	前出

参考資料1-7-③ : 熊野十二所権現

その4

社殿	社殿名		本地仏の使命	祭神	神の由来
第11殿	本宮	飛行夜叉(ひぎょうやしゃ)	不動明王:護法善神として天狗を祀るといわれる宮。憤怒の形相で煩惱を退ける明王	弥都波能売命(ミツハノメノミコト)	日本における代表的な水の神(水神)。カグツチを生んで陰部を火傷し苦しんでいたイザナミがした尿からなる
	新宮			大戸之道尊(オオトノジノミコト)	国常立尊からの第四神。沙土煮尊(すいじに)とともにになる男女神。泥と砂の神
八社殿	那智	米持金剛	釈迦如来	泥土煮尊(ウイジニノミコト)	前出
第12殿	本宮	勧請十五所	釈迦如来	稚産靈命(ワカムスピノミコト)	「ムスピ」は生成の意味であり、穀物の生育を司る神。古事記では豊受比売を生んだ神
	新宮	米持金剛	毘沙門天(多聞天)	泥土煮尊(ウイジニノミコト)	前出
八社殿	那智	飛行夜叉	不動明王	大戸之道尊	前出
第13殿 (八社殿)	那智	勧請十五所	釈迦如来	面足尊(オモダルノミコト)	国常立尊からの第六神。煌根尊(かしこね)とともにになる男女神。容姿や大地が整った意味の神?

参照資料5-2: 大斎原の日本宮

